



和'S YAMATO

(わずやまと)

初春号

2017



上高地の冬

冬の上高地より望む穂高連峰と瀧沢カール。登山者の聖地である上高地。古来には「神降地」と記され、神域でした。撮影：大谷隆司さん

—特集1「真田丸」—

- ◎ 大坂冬の陣・夏の陣
- ◎ 松代—往時の面影残る城下町—

—特集2「おんな城主直虎」—

- ◎ 主な出演者・直虎ゆかりの地
- ◎ 人物関連図・年表
- ◎ 浜松市楽器博物館

—お客様紹介—

- ◎ 安曇野しゃくなげの湯 様
- 名瀑探訪 麻苧の滝



名瀑探訪

あさお

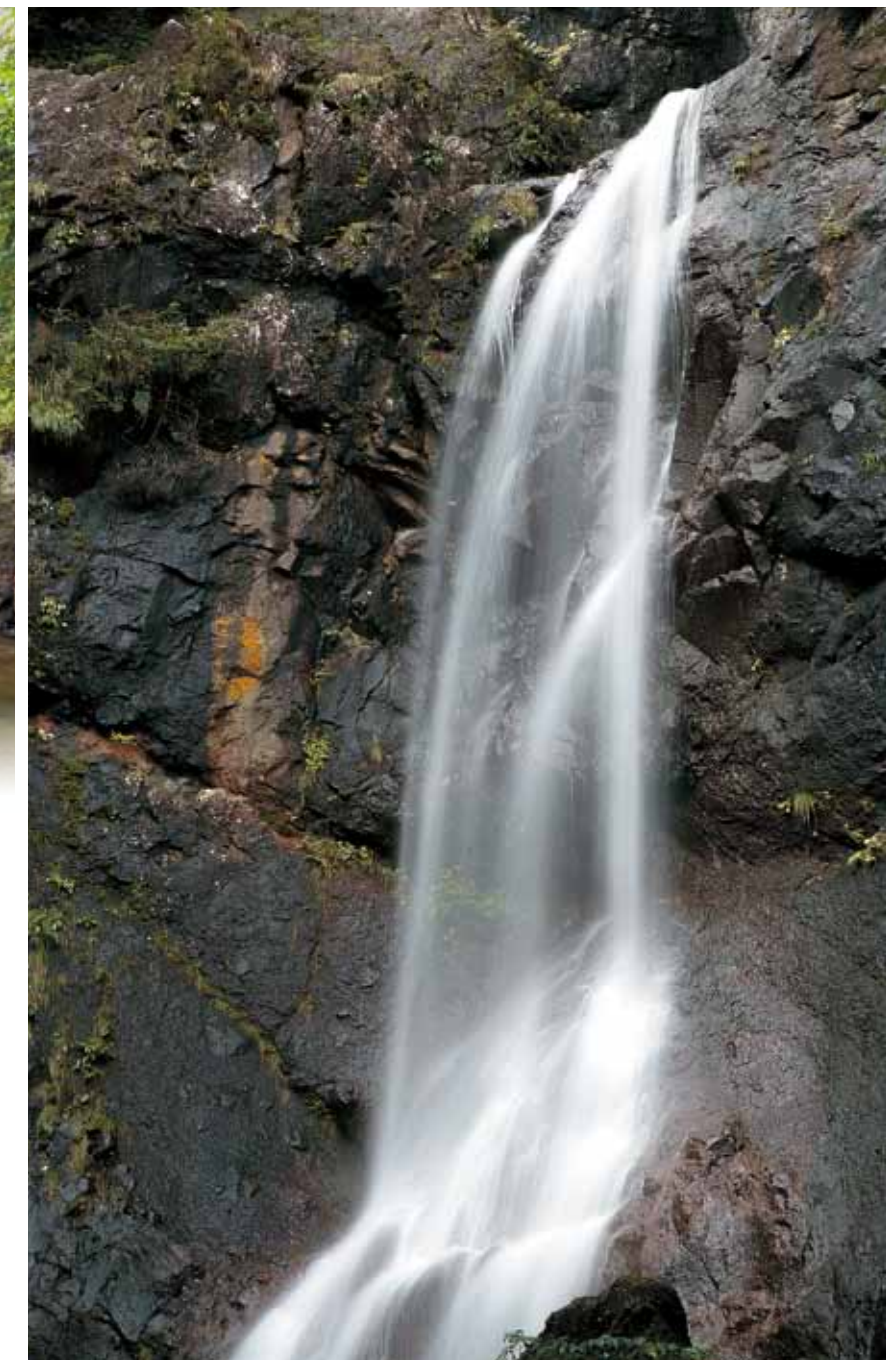
麻苧の滝

A S A O
N O
T A K I

(群馬県安中市)

あさお

麻苧の滝は、妙義山の岩間から流れ出る水を源流とした碓氷川の支流にある滝で、全部で7つあります。そのうち落差が約40メートルあるのが父滝です。断崖から麻の簾を垂らしたような飛瀑から「麻苧の滝」と名づけられたそうです。この滝は、古くから山岳信仰の修験場として知られ、山中には数多くの石仏が散在しています。信越本線や国道18号線からも近く、増水時の雄大さは見ごたえ十分とのこと。滝の場所は横川の「碓氷峠文化村」協の碓氷川対岸で、「麻苧の滝自然公園」として整備されており、手軽に滝めぐりができます。



和'S YAMATO

(わずやまと)

初春号(第31号) 2017

『和's YAMATO』の由来

ヤマトの漢字の「和」、Water & Airの頭文字を合わせて「WA」、「S」はスタート。ヤマトが発信するメッセージです。

株式会社ヤマト情報誌

和'S YAMATO 2017 初春号 / 2016年12月発行

発行：株式会社ヤマト(広報室) 群馬県前橋市古市町118 TEL.027-290-1891 FAX.027-290-1896

群馬県前橋市古市町118 〒371-0844 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896

支店／東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎、東北

営業所／軽井沢、伊勢崎、神奈川県央、茨城、太田、東松山、新潟、長野、渋川、川口、多摩、横須賀、滋賀

附属施設／大和環境技術研究所、大和分析センター、加工センター、

朝倉工場、教育センター、コンタクトセンター、サポートセンター

ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp/

株式会社 ヤマト





真田の抜け穴

三光神社にある真田の抜け穴。柵でふさがれおり中は見通せない。この一帯は真田丸があったとされる場所で、大坂城内に通じる抜け穴といわれている。抜け穴の上部は真田丸に模した造りで、砲身が覗いている



三光神社の真田幸村像 決戦を前に自隊を奮い立たせようと采配を掲げている



真田丸顕彰碑

真田幸村が大坂冬の陣の際に築いた「真田丸」があったとされる場所に、天王寺区が2016年2月に建立した。幅260cm・高さ165cmで、大坂城石垣と同素材の岡山県犬島産の花崗岩を使用している

真田丸の攻防で手痛い打撃を受けた家康は、堅城・大坂城を陸戦で攻めても犠牲が大きく、優位な戦いが難しいことを改めて痛感し、作戦を変更する。堤防を破壊して川の流れを変え、城内への水の流れを乏しくして水不足に陥らせる、地下から城内へ通じる坑道を掘る、籠城している淀殿や兵を眠らせないため、毎晩鉄砲を撃ちかけ、関の声をあげるなど、戦意を喪失させるための策を次々と実行した。それでも豊臣方は屈服せず、膠着状態になると、家康は外国から輸入した最新式の大砲で、天守閣に向けて砲弾を撃ち込み始めた。淀殿は、侍女が砲弾で吹き飛ばすのを目の当たりにし、ついに講和へ傾いたのだった。

大砲の砲撃で 淀殿の戦意を挫く

真田丸の攻防で手痛い打撃を受けた家康は、堅城・大坂城を陸戦で攻めても犠牲が大きく、優位な戦いが難しいことを改めて痛感し、作戦を変更する。堤防を破壊して川の流れを変え、城内への水の流れを乏しくして水不足に陥らせる、地下から城内へ通じる坑道を掘る、籠城している淀殿や兵を眠らせないため、毎晩鉄砲を撃ちかけ、関の声をあげるなど、戦意を喪失させるための策を次々と実行した。それでも豊臣方は屈服せず、膠着状態になると、家康は外国から輸入した最新式の大砲で、天守閣に向けて砲弾を撃ち込み始めた。淀殿は、侍女が砲弾で吹き飛ばすのを目の当たりにし、ついに講和へ傾いたのだった。

真田の真骨頂、 引き寄せて討ち取る

前田隊は奇襲攻撃を仕掛け、真田隊が潜んでいる笹山に進撃してみると、そこに真田隊の姿はなかった。幸村は、前田隊をおびき出そうとの計略で、笹山から銃撃したのち撤退していたのだ。前田隊は難なく笹山を占拠したため、その余勢でさらに進軍し、空堀の柵際まで兵を進めたところ、真田丸から雨あられのごとく矢玉が降り注がれた。堀を越えなければ敵陣に銃弾が届かず、損害を与えることができないため、前田隊の兵は何とかして堀を越えようと試みるが、ことごとく討ち取られた。真田丸での銃声を聞きつけた井伊直孝、松平忠直、藤堂高虎の諸隊も真田丸に向け進撃し



大坂城 慶長20年(1615)5月、大坂城は炎上し、秀頼と淀殿は自害して豊臣家は滅亡した。現在の大坂城は昭和6年(1931)に大阪市民の寄付により鉄筋コンクリートで建造されたもの。天守閣の内部は8階建ての展示施設で、大坂の陣の展示室もある



豊臣秀頼像 (玉造稲荷神社)

大坂冬の陣

幸村が大坂城に入城して着手したのは、本城から南の方向に張り出した部分に、出丸を築くことだった。大坂城は西に海、北に淀川、東は湿地と三方は敵の侵入を阻むが、南方は平坦な台地が広が

り、敵の大軍はこの城南に押し寄せ来ることは明白だった。その攻撃を防御する前線基地として、幸村は後世「真田丸」と伝えられる出丸を築いた。この真田丸、俯瞰すると牛の舌のような形で、舌の縁にあたる部分には堀をめぐらし、敵陣偵察のための櫓が組まれ、さらに堀の外周に空堀を掘って三重の柵で囲っていた。

大坂冬の陣で高まる 真田丸の存在感

慶長十九年十一月十八日、家康は、自軍にとって有利な講和条件を引き出すことを目的に、大坂城を完全に包囲した。その数は豊臣方兵力の二倍に相当する二十万ともいわれ、豊臣方の戦意を挫いて、大坂城を開城させる計画を持っていたという。家康は前田利常に塹壕を掘り時間をかけて真田丸を攻撃するように命じていた。しかし、家康の戦略が全軍に行き届かず、十二月四日、徳川軍から真田丸への攻撃が開始され、大坂冬の陣は火ぶたを切った。この攻防戦は、塹壕掘りをして前田隊の一部が、幸村の挑発に乗せられて勃発したとされている。真田丸の南方の敵陣との間にある笹山(篠山)と呼ばれる小高い丘があり、ここから真田丸の城兵が敵陣に向けて散発的に銃撃を加えていた。この攻撃を食い止めようと、前田の先鋒隊が密かに笹山への侵入を企てた。

真田幸村 戦国時代最後の決戦

日本一の兵 家康を追い詰め、語り継がれる武勇



真田幸村(信繁)画像

NHK大河ドラマ『真田丸』 戦国時代の荒波を かいくぐる真田丸

2016年NHK大河ドラマ「真田丸」は、乱世の戦国時代を生き延びていくために、強大な武將と渡り合い、奇策で翻弄しながら家督を守り通した真田氏の物語です。大阪の陣では、戦国時代最強の者といわれる「真田丸」を作り上げ、徳川家康を窮地に追い込む劇的な戦を実践しました。「真田丸」とは、真田一族の命運を託した小舟にもたとえることができます。

幸村、九度山から大坂へ

慶長十九年(一六一四)十月九日、九度山から大坂へ向かった真田幸村(信繁)

は、打倒徳川のため同道した信州の浪人

たちなど百三十人の手勢とともに、夜を

徹して行軍し、高野街道の難所である紀

見峠を越えた。一行は河内長野、富田林を

経て北進し、後に夏の陣の激戦地となる

道明寺(藤井寺)、平野を通過し、幸村に

とって因縁の天王寺を経て、大坂城に入

城した。大坂城では、秀頼から召募された

浪人が集結していたが、そのいでたちは

いかにもむさ苦しく、傭兵の寄せ集めと

いった感が強かった。そこに幸村一行は

整然と隊列を組んで入城、規律を保った

精鋭部隊の自信と気力がみなぎっていた。

秀頼や淀殿にとっては、心強い援軍の

到着として受け止められたのである。

幸村が大坂城に入城して着手したのは、

本城から南の方向に張り出した部分

に、出丸を築くことだった。大坂城は西

に海、北に淀川、東は湿地と三方は敵の

侵入を阻むが、南方は平坦な台地が広が



全興寺

幸村が仕掛けた地雷が樋尻口地藏堂で爆発し、地藏の首が全興寺まで飛んだといわれ、「首の地藏尊」として祀られている



平野郷樋尻口門跡 大坂に向け進軍する徳川家康が平野周辺で休憩をとると幸村は予測し、この場所に地雷を仕掛けたといわれている



しきながよし
志紀長吉神社

幸村が道明寺の戦いから退却する際に、軍旗や刀剣を奉納して戦勝を祈願したとの言い伝えが残る神社

地雷を仕掛ける奇襲攻撃―平野郷の戦い―

道明寺の戦いで敗れた幸村の豊臣軍は、大坂城へ向かう家康を平野（現在の大阪市平野区）で待ち伏せ、地雷を仕掛けたという。

最後の決戦に挑むのだった。

道明寺の戦い

後藤又兵衛の奮戦

がかりをつけ、秀頼が大坂城を出て大和（奈良県）か伊勢（三重県）に国替えせよと、講和条件を無視した無理難題を突き付ける。豊臣方がこれを拒否し、両軍は再び激突することとなる。

主戦か恭順か、
心揺れる幸村

幸村が、秀頼への恩義に報いなおかつ

大坂夏の陣

大坂の陣史跡茶臼山のモニュメント

茶臼山は、大坂の陣の重要な舞台で、慶長19年(1614)11月からの大坂冬の陣では、徳川家康の本陣となり、翌年5月の夏の陣では、真田幸村勢の本陣となった



大坂城真田幸村勇戰之図（部分）〔上田市立博物館蔵〕

中央に描かれた幸村の左右には大熊備前、三好青海入道らの名があり、向かって右の馬上には幸村の息子・大助の姿がある



心眼寺

真田幸村・大助父子を祀る。元和八年(1622)に父子の冥福を祈るために建立されたため、山号は真田山、寺紋は六文銭になっている。この地は真田丸の中心部と推定されており、門前には「真田幸村出丸跡」の碑が建つ

真田幸村出丸城跡

内堀を埋められ、防衛機能を削がれた大坂城

徳川と豊臣の交渉は、慶長十九年（一六一四）十二月十九日に基本的な合意に達した。和睦の条件として豊臣方は、一、籠城した浪人をとがめないこと、二、秀頼の所領は現状維持にすること、三、淀殿は人質とならないこと、四、秀頼

が大坂城を出る時は、希望する場所に国替えできること、五、秀頼に対し嘘はつかないこと、の五項目を示し、それに対して徳川方は大坂城の二の丸、三の丸の破却と、外堀の埋め立てを条件とした。ところが、慶長二十年一月、家康は和睦の条件には無かった内堀の埋め立てを強行し、大坂城は城としての防御機能を

豊臣家が生き残る道は、恭順策を進言することだと考えても不思議ではない。しかし、幸村が大坂城内で豊臣の重臣を差し置いて、秀頼に重要な政策を献じる立場に無いのも明らかだった。秀頼に恭順を説得しようとしている大野治長は、城内の主戦派から襲われ重傷を負っており、幸村が恭順派に転じれば命を狙われるのは避けられない。

幸村は、徳川軍とどのように戦うかを思いめぐらしていたことだろう。籠城策はとれないため、野戦となるのは免れない。その場合、兵の少ない豊臣方は苦戦するのは必至だが、家康さえ討ち取ることができれば、徳川方に味方していた大名も、豊臣方に寝返ってくる可能性は大いにあり得る。

——イエズス会宣教師の記録には「家康が死ぬと後を継ぐ秀忠は滅びるだろう、秀忠は大名たちに嫌われているため政権を得られないだろう」などとする記述がある。――

幸村はどのようにすれば家康の首を取る事ができるかを考え抜いた。家康に迫る作戦を立てる時に最大の障害になるのは、寄せ集めの浪人たちが作戦通りに動く保証が無いことだった。功名心にはやり、身勝手な行動が起れば、作戦の遂行が困難になってしまう。それでも幸村は、唯一無二の策として、家康本陣に標的を絞り勝負をかけることとし、

大坂城内では、徳川軍と一戦交えるべきとする主戦論が台頭していた。慶長二十年四月四日、家康は駿府城を出発し、「兵糧は三日分でよい」と早期決着での勝利を予想していたという。慢心する家康の隙を狙い、幸村の奇策が実行に移されようとしている。そして同じ日、秀頼は軍

議の席上で「敵来たらば合戦し討ち死にせんとするなり」と宣言したという。この秀頼の決意が幸村の心を奮い立たせた。徳川方は約十万、豊臣方は五万と戦国最後の大戦・大坂夏の陣の戦端が開かれた。

豊臣方は、大和から河内平野に抜ける
直前の道明寺付近に布陣し、ここから侵

直前の道明寺付近に布陣し、ここから侵入してくる東軍を各個撃破する作戦を立てた。五月五日、後藤又兵衛が道明寺方面で決戦を挑むことに決まり、出陣の

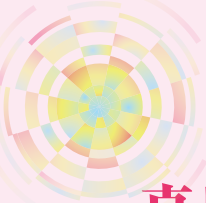


道明寺合戦記念の碑

当初の予定では、後藤軍に続く真田軍、毛利軍が藤井寺で合流し、道明寺へ向かう予定であつたが、真田・毛利軍らは濃霧に阻まれて行軍が遅れ到着が大幅にずれ込む。後藤軍は、徳川軍の戦鬪準備ができるのを恐れ、待ち切れずに独自に応神天皇陵に布陣した。

翌日の朝に、後藤軍は徳川軍が布陣する国分に面した小松山に進んで戦備を整えて、一斉に攻撃を加え、松倉重政、奥田忠次軍に大打撃を与えた。しかし、伊達政宗が後藤軍を側面から攻撃したため、後藤軍は小松山から撤退。又兵衛が戦死し、後藤軍は総崩れとなった。

ようやく薄田兼相が到着し徳川軍を迎撃するが、あえなく兼相は戦死してしまふ。幸村が到着した時には、主力部隊の主将は既に戦死しており、徳川軍の攻撃をまともに受けても勝ち目はないと判断し、退却を決断した。



—真田丸と天王寺合戦—

MAP: 大阪市中央区



霧降りの松跡

一心寺内にある「霧降りの松」跡。大坂夏の陣で、幸村に追い詰められた徳川家康がこの松の影に身を潜めたところ、霧が吹きだし一命を取りとめたという伝説が残る



真田の抜け穴

一心寺の境内にある「真田の抜け穴」と伝わる井戸跡



一心寺の山門

出迎えるのは、ダイナミックなブロンズの仁王像。武器を持たず素手で勇猛果敢に悪者を退治する様を表現している。彫刻家・神戸峰男氏作品



一心寺の「存車堂」

「大坂夏の陣図」屏風の複製陶板作品が展示されているほか、真田幸村関連の資料類やポスター、書籍類などを配布・販売。「大阪の陣」のアニメが楽しめるシアター(入場無料)も併設されている



安居神社

一心寺から国道25号線を挟んで向かいにある「安居神社」。大坂夏の陣で真田幸村(真田信繁)が討死した場所とされている



さなだ松

真田幸村像の後方に見える松「さなだ松」の下で、幸村は力尽きたとされる(安居神社)



家康大仁村難戦の図

真田幸村(左)徳川家康(右)幸村に追われ、死を意図しながら単騎で逃げる家康の姿が描かれている

あっぱれ 真田 日本一の兵

引き倒される家康の馬印

道明寺の合戦の敗戦により後藤、薄田らの将を失い、若江・八尾の合戦の敗戦で木村重成を失うという痛手を被った豊臣軍は、かなり厳しい戦いを強いられた。戦況を転換させるには、家康の首をとることが不可欠と幸村は固く決心したことだろう。家康の本陣は、幸村の全面を阻んでいる越前軍一万三千の後方にあった。幸村は家康に狙いを定め、真田隊と加勢した毛利隊は、一丸となって越前軍をかき分けて突撃を開始した。また、幸村は自軍の士気を高めるために、秀頼の出馬を要請したが、側近の反対で受け入れられず、真田・毛利隊は孤軍奮闘を余儀なくされた。

真田・毛利隊は越前軍の攻撃をかわしながら果敢に突き進み、ついに家康を守護する旗本の一団と対峙した。真田隊は激しい戦闘を繰り返す、その勢いに陰りが見えてきたが、幸村は劣勢を跳ね返し、あきらめずに決死の突撃を繰り返す。真田軍の勇猛果敢な猛攻を受け、家康の旗本は攻撃を避けようと後ずさりしながら防戦するが、ついに家康の馬印が引き倒されるといふ異常事態となった。圧倒的優勢なはずの徳川軍が、わずか三千騎余りの真田隊に追い詰められ、窮地に立たされるとは悪夢以外の何物でもなかったであろう。家康の戦いの歴史

史で馬印が倒されたのは、三方ヶ原以来であり、その屈辱は計り知れない。このまま幸村の追撃を食い止められずに討ち取られようものなら、徳川の威信は地に落ちる。その最悪の事態を回避するためにも、ここで腹を切ったほうがまだましだ、と家康は覚悟を決めたというが、側近が必死に説得して、どうにか思いとどまったそう。幸村による決死の突撃は、家康に死を覚悟させるほど凄まじく、「真田日本一の兵」と言わしめた所以である。

家康の首まであと一歩というところまで肉薄した幸村だったが、多勢の徳川軍がようやく体制を立て直し、真田隊に次々と襲いかかる。勢いを失った真田隊は大半の兵を失い、幸村は家康の首に届かず、無念の退却を余儀なくされたのだ。

家康に肉薄し、力尽きる

混乱に陥った徳川軍本陣では、自軍の別同部隊からの加勢を得て勢いを盛り返し、弱体化した真田隊を追い詰め、形成を逆転させた。かろうじて切腹を思いとどまった家康は、声をからして総攻撃を命じる。動揺している徳川軍の虚を突くのはこの場面しか無いことをわかつている幸村は、再度秀頼に出馬を要請したが、その願いは実現せず、豊臣軍は敗走していく。決死の突撃で手傷を負った幸村は、安居天神の近くの畦で手当てをして



真田信之は上田から松代に移封



松代城跡

松代城は戦国時代に武田信玄方の山本勘助によって築城された城といわれ、元々は「海津城」と呼ばれていた。明治の廃城に伴い建物が壊されたため長い間、石垣を残すのみだった。昭和56年(1981)建物が現存する真田邸とともに国の史跡に指定され、その後、2004年に櫓門・木橋・石垣・土塁・堀などが復元される 【開門時間】 9:00 ～ 17:00



真田宝物館 (提供:長野県観光機構)

真田家伝来の武具、調度品、書画など大名道具など約五万点を収蔵・展示する博物館。重要文化財「青江の大太刀」は幸村の叔父・信綱が長篠の戦いで使用したとされる

【開館時間】 9:00 ～ 17:00 (入場は16:30まで)

【休館日】 毎週火曜日(祝日・年末年始を除く) くん蒸期間中(6月最終週)

【料金】 大人…300円・小中学生…120円



現在、松代エリアは真田氏の城下町として整備が進み、江戸時代の歴史文化遺産が数多く見られ、往時の面影を偲びながら散策を楽しめる。

真田信之は元和八年(一六二二)に上田から松代へ移封となった。信之は父の昌幸から受け継いだ「真田の家名を守る」ことを常に考え、領国の安定経営に努めた。真田氏は松代藩主として幕末まで約二百五十年にわたって家名をつないでいくことになる。



大坂の陣以後の真田氏 松代——往時の面影残る城下町——



松代藩文武学校

八代藩主幸貫が抜擢した思想家の佐久間象山の具中により計画され、嘉永六年(1853)に完成。西洋医学や西洋砲術の教育を取り入れた



長國寺 真田家の菩提寺。信之が上田城から松代城に移城した元和八年(1622)に建立され、歴代松代藩主の墓所などがある。本尊は阿弥陀如来。重要文化財に指定されている。長國寺内の松代藩主真田家墓所は堀に囲まれており、歴代12人の藩主やその子女の墓がある。初代藩主・信之の霊屋のほか、幸隆、信綱、昌幸、信之、幸村、大助らの供養碑などもある

【見学時間】 9:00 ～ 16:00 【休み】 毎週水曜日・年末年始

真田邸(新御殿) (提供:長野県観光機構)

江戸時代末期の元治元年(1864)に、松代藩9代藩主の真田幸教が義母貞松院の住居として建築した。松代城跡の建築物として唯一、当時のままだに残った貴重な建物で、間取りなどに武家屋敷の面影を色濃く残し、全国でも数少ない御殿建築の遺構である

【開館時間】 9:00 ～ 17:00 (入場は16:30まで)

【料金】 大人…200円・小中学生…80円 【休館日】 無休

大坂夏の陣図屏風 右隻全図



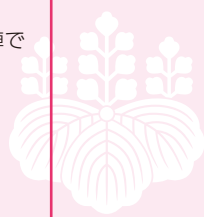
大坂城

落城寸前の姿が描かれている



豊臣秀頼

金の団扇を付けた指物から豊臣秀頼の本陣であることがわかるが秀頼は楼門から外に出ることは無かった



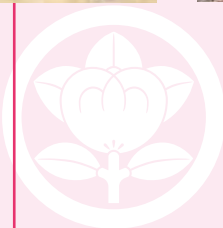
真田幸村

朱の幟を林立させ赤の具足と指物で固めている



徳川家康

馬上で軍配を掲げて指揮している



井伊直孝

馬上で赤具足を身に着けている



大坂夏の陣



2017年 NHK大河ドラマ おんな城主 直虎

2017年のNHK大河ドラマ「おんな城主 直虎」は、徳川四天王の一人として徳川家康を支えた井伊直政の養母といわれる井伊直虎が主人公である。戦国時代、井伊家の存続を図るためにおんな城主になった直虎の姿を描いている。

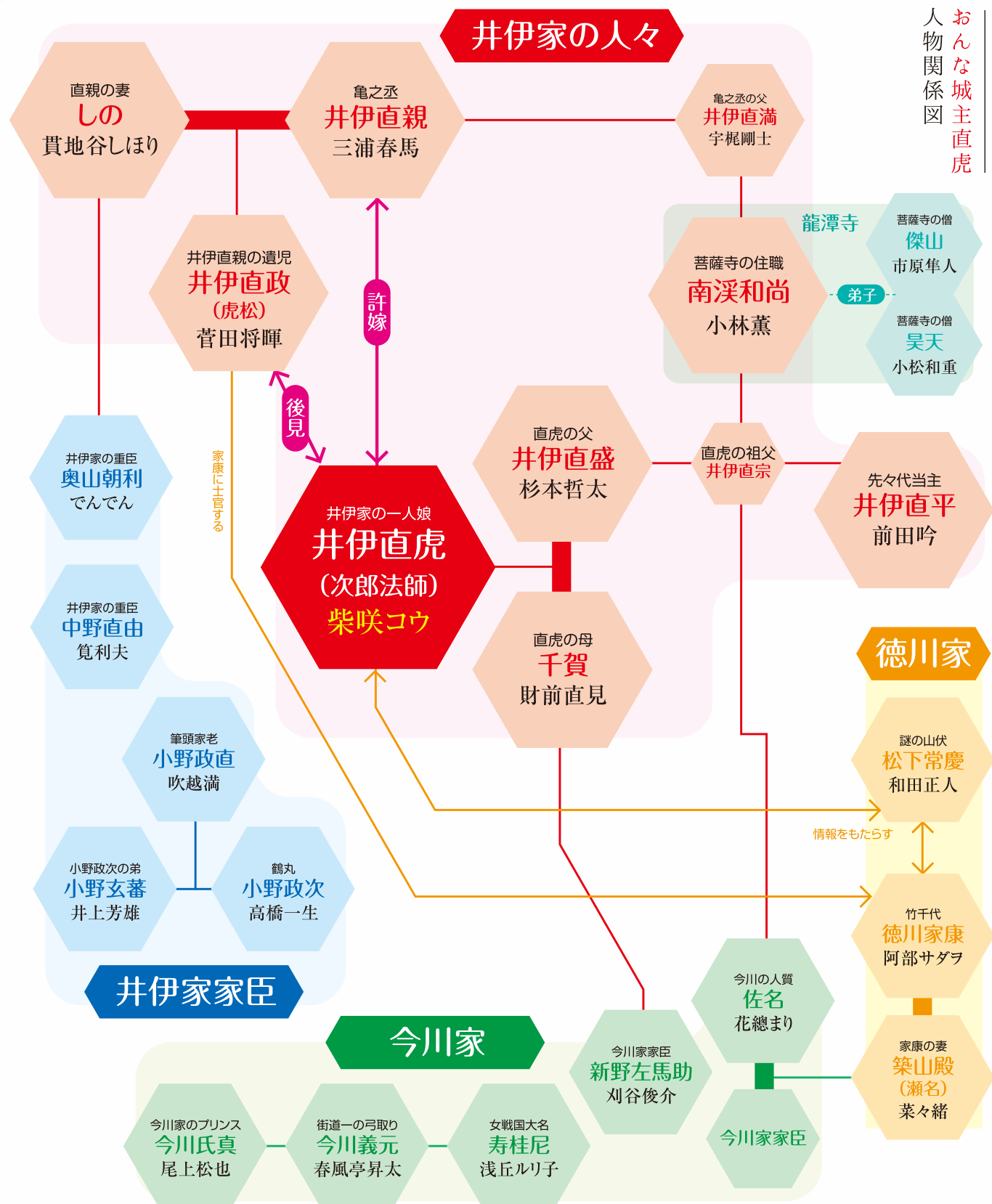
直虎は井伊家二十二代・直盛の一人だが、歴史上では無名の人物で、その存在を裏付ける史料はわずかしか残っていない。当時の井伊家は今川義元の配下にあつたが、井伊家内部の対立や相次ぐ戦争により跡継ぎが死に、井伊家の血族で当主になる資格を持つ者は直虎の元許嫁・直親の子で、幼い虎松（後の直政）だけになっていた。

井伊家はまさに一族が滅亡する瀬戸際に立たされたのだが、女性の城主に就任したのが直虎だった。直政は直虎の庇護を受けて幼少期を過ごし、徳川家康に見いだされ、徳川家の重臣・「徳川四天王」の一人として活躍し、井伊家の再興を成し遂げたのだった。

ドラマ情報…2017年 NHK大河ドラマ「おんな城主 直虎」
2017年1月8日(日)放送スタート NHK総合20時 ※初回のみ1時間

戦国時代に男の名で家督を継いだ「おんな城主」がいた。
遠江(静岡県西部)井伊家の当主、井伊直虎である。
戦のたびに当主を殺され、ただひとり残された姫が、「直虎」と勇ましい名を乗っけて乱世に立ち向かった。
自ら運命を切り開き、戦国を生き抜いた女の激動の生涯を描く。

おんな城主直虎 人物関係図



直虎とかかわっていく人物



主な出演者



- 財前直見 直虎の母・千賀
- 前田吟 直虎の曾祖父・井伊直平
- 杉本哲太 直虎の父・井伊直盛
- 小林薫 菩薩寺・龍潭寺の住職・南溪和尚
- 柴咲コウ 主人公・次郎法師／井伊直虎
- 高橋一生 井伊家筆頭家老・小野政次
- 三浦春馬 直虎のいなすけ・井伊直親
- 柳楽優弥 盗賊団のかしら・龍雲丸
- 貫地谷しほり 直親の妻・しの
- ムロツヨシ 豪商・瀬戸方久
- 阿部サダヲ 今川家の人質・徳川家康
- 菅田将暉 井伊直親の嫡男・虎松／井伊直政
- 菜々緒 家康の正室・瀬名／築山殿
- 柴咲コウ 主人公・次郎法師／井伊直虎
- 春風亭昇太 海道一の弓取り・今川義元
- 浅丘ルリ子 義元の母・寿桂尼
- 尾上松也 義元の嫡男・今川氏真

2017年 NHK大河ドラマ「おんな城主 直虎」主な出演者

直虎・直政関連略年表

室町時代

天文13年(1544)	井伊家当主・直宗の弟、直満と直義が、家老小野和泉守道高のざん言により、駿府で今川義元に誅殺される。直満の子・亀之丞(9歳)も命を狙われ、信州に身を隠す。
天文18年(1549)	松平竹千代(徳川家康)、駿府へ人質として入る。
弘治元年(1555)	信州より亀之丞(20歳)帰国。井伊直盛の養子となり井伊直親と名乗る。
永禄3年(1560)	桶狭間の戦い。井伊直盛、今川義元に従い出陣。桶狭間にて織田信長と戦い義元と共に討死。直親(25歳)が井伊家当主を継ぐ。
永禄4年(1561)	虎松(井伊直政)誕生。
永禄5年(1562)	井伊直親(27歳)、家老小野但馬守のざん言により今川氏真の呼び出しを受け、駿府に申し開きに行く道中、今川家臣に攻められ討死。
永禄8年(1565)	井伊直盛の娘・次郎法師、「直虎」と名乗り地頭職につき、虎松(4歳)の後見人となる。
永禄11年(1568)	今川氏真が井伊領に出した徳政令を実行する。これにより直虎の地頭職は廃止され、家老小野但馬守が井伊領を支配。直後に徳川家康が遠江に侵入し、井伊谷城を接収する。虎松は三河鳳来寺に逃れる。
永禄12年(1569)	今川氏滅亡。
元亀3年(1572)	三方ヶ原の戦いで徳川家康が武田信玄に大敗する。
元亀4年(1573)	足利幕府崩壊。井伊谷は武田軍により焼き払われる。武田信玄病死。

戦国時代

天正3年(1575)	虎松(15歳)、徳川家康に士官を認められ、万千代と名を改める。長篠の戦い。
天正10年(1582)	本能寺の変で、織田信長、明智光秀に討たれる。直虎逝去。万千代、元服し井伊直政を名乗る。
天正12年(1584)	小牧・長久手の戦い。直政、武功を上げ六万石に増加。諸大名から「井伊の赤鬼」と恐れられる。
天正18年(1590)	小田原の陣。直政、上野国(こうずけのくに)12万石を与えられ、箕輪(みのわ)城の城主となる。
慶長5年(1600)	関ヶ原の戦い
慶長7年(1602)	直政、関ヶ原の戦いの傷がもとで死没。



直虎ゆかりの地観光スポット **楽器産業発祥の地**

浜松市楽器博物館は日本で初めての公立楽器博物館として、平成7年(1995)4月に開館しました。浜松市が日本の洋楽器産業発祥の地であり、明治以来百有余年の長きにわたって日本での楽器製造の中心地であることが設立の背景です。

浜松市の楽器産業は、ピアノを中心とした西洋楽器ですが、楽器博物館は展示の対象を西洋楽器に限定せず、世界の楽器を平等に展示して紹介しています。楽器は音楽を奏でる道具ですが、それ以外のたくさんのメッセージを発信しています。形や色からは美的センスを、素材からは自然環境を、構造からはものづくりの知恵を、装飾からは神への信仰や暮らしの様子をうかがい知ることが出来ます。音楽が苦手だとしても、美術や歴史、自然科学、工学技術など、ほかの色々な関心に応えてくれます。楽器博物館は様々な文化の世界への入口です。

常設展観覧料	大人	高校生	中学生以下	高齢者
個人	800円	400円		
団体(20名以上)	640円	320円	無料	無料
団体(80名以上)	480円	240円		

住所：〒430-7790 浜松市中区中央3-9-1 (JR浜松駅前)
TEL：053-451-1128



龍潭寺 (浜松市北区引佐町井伊谷1989)
 龍潭寺は、井伊氏歴代の当主を祀っています。奈良時代に行基によって開創された古寺で、平安時代から井伊氏の菩提寺であったとされています。戦国時代には、井伊直平を敬う黙宗瑞淵(もくしゅうたんえん)和尚を迎えて開山し、永禄三年(一五六〇)桶狭間で戦死した井伊直盛の戒名から寺号を「龍潭寺」に変えたといわれています。また、龍潭寺第二世住職 南溪和尚は直平の子という説もあり、井伊直虎を「女城主」として立てるなど、井伊氏再興の陰の立役者として知られる人物です。井伊氏ゆかりの足跡は境内の至るところに点在し、直盛・直虎、直政をはじめとする井伊氏歴代の墓をはじめ、赤地に「井」の記が描かれた龍など、井伊氏伝来の品も見ることが出来ます。

直虎ゆかりの地

共保公出生の井戸

井の国の中心となる古代以来の神社。南北兵乱のとき龍潭寺の境内から現在地へ移ったといわれています。井戸や井水を祭祀対象とした神社で、井伊氏の発祥とともに氏神になりました。本殿背後の丘には古墳時代の巨石祭祀の遺跡・天白磐座遺跡があります。

渭伊神社



創立明治五年(一八七二)、後醍醐天皇第四皇子である宗良(むねよし)親王を祀る旧宮幣中社。学徳成就・家内安全などを願い、毎年多くの参拝者が訪れます。祭神は、建武の中興の中心人物・後醍醐天皇の第四皇子である宗良親王。



井伊家初代共保公が出生したという伝説のある井戸。龍潭寺山門の南、田園に囲まれたのどかな場所にあります。白壁に囲まれた大きな石組みの井戸で、傍らには井伊氏祖備中守藤原共保出生之井の碑が建っています。



妙雲寺 (みょううんじ)
 妙雲寺は龍潭寺(同町)と同じく直虎の菩提(ぼだい)寺の一つ。直虎と直虎を支えた南溪和尚の位牌があります。位牌は二〇一五年十一月末に妙雲寺檀徒総代の有海隆太郎さんと妙雲寺の住職が本堂内を整理していた際に発見されました。位牌は龍潭寺にもあります。南溪和尚は女性の直虎を領主に推薦し、井伊家の再興に貢献した龍潭寺二代目住職。位牌は土、日曜と祝日限定で一般公開されています。



妙雲寺の山門



妙雲寺にある井伊直虎の位牌(左)と南溪の位牌



安曇野しゃくなげの湯様



安曇野市の日帰り温泉施設「安曇野しゃくなげの湯」が二〇一六年十月にオープンしました。安曇野しゃくなげの湯は中房溪谷から天然温泉を引き込んでいます。露天風呂にはあつ湯、ぬる湯と2つの浴槽があり、お好みの温度の温泉に入っていただけます。また、炭酸泉、シルク湯、ジェットバス、塩サウナ、遠赤外線サウナと内湯ではバリエーション豊富なお風呂。サウナを男女入れ替えてお楽しみいただけます。

安曇野市役所の丸山主査からは「ユニット化された機器類で構成される機械室は、大変メンテナンスがし易く、維持管理の側面からも優れています」と評価していただきました。(株)ヤマトJVは機械設備工事を施工しました。

営業時間

9時30分～21時30分（最終受付20時30分）
休館日 毎月第1水曜日

施設概要

住所 〒399-1830 長野県安曇野市穂高有明726番地4
TEL 0263-881-4126

入浴料

	安曇野市内の方	安曇野市外の方
大人（中学生以上）	500円	700円
70歳以上	450円	650円
小人（小学生以下）	300円	400円

お客様の声



安曇野市 商工観光部
観光交流促進課 拠点維持整備係 丸山剛 様

安曇野市役所丸山様にお話を伺いました。
しゃくなげの湯の特色は？

今回新築したしゃくなげの湯の前身しゃくなげ荘は、昭和40年頃、農作業で働く方々が疲れをいやす温浴施設として開設され、宿泊や宴会ができる施設として好評でしたが、次第に経年劣化し、平成15年ごろから建て替えの話が上っていました。今回新築した施設は宿泊や宴会の用途は考えず、日帰り温泉に特化した施設としました。

当施設の周辺は山が近く、観光振興の一助にもなればとの期待があります。当施設の近くに燕岳など北アルプスの名峰の登山口があり、駐車場にクルマを停めて登山口までタクシーが路線バスで行き、山登りをして、別の登山口に降りてくるという、往復で違う登山道を通る楽しみ方ができます。観光拠点としての利用増加が見込まれます。それと同時に、先ほどお話ししましたが、地元の方々の利用が前提としてあり、特に高齢者の利用率が高いので、福祉施設としての側面も併せ持っています。今回新築の施設では、大広間のス

ペースをゆったりと確保し、家族風呂も設置しています。家族風呂では、介助の必要な方や、乳幼児の利用を想定しています。

良質な天然温泉が豊富で、リニューアルした今回の施設を多くの方に利用してもらいたいと思います。

安曇野の良さ、冬の観光スポットを教えてください

安曇野は水が清らかです。安曇野市の水道はすべて地下水を使っています。水道法により、次亜塩素酸ナトリウムを投入していますが、ろ過はしていません。買水よりもおいしく感じます。水がきれいではないと名産のワサビにしても品質の高いものが作れません。道祖神が多い土地としても有名で、江戸時代初期などかなり古いものもあります。そばも有名です。新そばの季節は大変な混雑です。芸術作家も多く住んでおり、自然と文化が融合する場所として人気があります。

冬は、都会の人が山の寒さを求めて来るが増えました。澄んだ空気、星空を見たり、イルミネーションや光のページェントを楽しんだり。白鳥の飛来地としても有名です。安曇野は九州との縁があり、大分の竹を使うた神竹灯（かみあかり）という幻想的なイベントも評判です。安曇野の冬を楽しんでいただけたらと思います。

安曇野冬の観光スポット

ハクチョウの飛来

犀川のほとりにある犀川白鳥湖と御宝田遊水池の2カ所に、10月中旬頃からコハクチョウが飛来し始め、安曇野で越冬する。3月末頃までに北方に帰る。信州で最大のハクチョウ越冬地で、多い年にはピーク時の1月に1000羽程にもなるといふ。



北アルプス連峰と白鳥

氷餅

昔から保存食として作られてきた素朴な郷土食。冬の間、水を含んだ餅を外に吊るして凍らせ、カラカラになるまで乾燥させたもの。元成までの期間は冬の寒さによつて異なるが、正月明けから春のお彼岸前後までつるしておくことが多いという。氷餅作りは信州の冬の風物詩（し）。



安曇野「神竹灯」

かみあかり

12月2日・3日・4日
点灯は午後4～午後8時頃

穂高駅前に鎮座する穂高神社境内と、その周辺に孟宗竹の竹灯籠に灯りがともる「神竹灯」。毎年11月、大分県竹田市で開催される竹灯籠イベント「竹楽（ちくらく）」を参考に、たもので、同竹田市の神「豊玉姫命」と安曇野の神「穂高見命」が兄弟神（姉と弟）という縁から、竹田の竹を安曇野に譲り受けて始められたもの。竹灯籠の数は年々増加していて、今年は8000本もの光が、辺りを幻想的に照らす。



水色の時道祖神

安曇野の至るところで、旅人の安全と人々の暮らしを見守っている道祖神。その数は500体を超える。「水色の時道祖神」は昭和50年（1975年）のNHK朝の連続テレビ小説「水色の時」の放送のために制作されたもので、最もポピュラーな道祖神のつ。現在、大王わさび農場から早春賦歌碑に行く途中、拝むことができる。



露天風呂



内湯の天然温泉浴槽



シルク湯



お食事処



蒸しユニット